

## 資料 1

## 第2回富谷市協働のまちづくり推進審議会委員意見一覧

No.	項目	委員意見		会長意見	
		No.		No.	
1	<p>富谷市の実施する具体的な支援について</p> <p>(1) 相談・コーディネート・ネットワークづくり</p> <p>地域での活動に関心のある人、すでに地域で活動をしている個人・団体等からの活動等に関する相談への対応、地域の様々な主体をつなぐコーディネート・ネットワークづくりの促進</p> <p>利用者の相談に対し、市民協働課職員は情報を提供したり、活動や学習のノウハウをアドバイスしたりすることを通じて、利用者が主体的に活動や学びに取り組んでいけるよう支援します。</p> <p>また、<u>中間支援組織</u>として、<u>子どもから高齢者まで市民や団体、企業、市など地域の様々な主体が連携協働した活動</u>に取り組めるようコーディネートします。</p>	中間支援組織			
		1	成田小学校でボランティアさんと先生との間に入って、ミシンのお手伝いをやっていた。ボランティアさんも学校に来て、動くのが大変で先生は先生で生徒さんの生活指導で大変だなと常々思っていた。つなげる立場の方がいるといいなと感じている。(佐伯委員)	1	現場での支援策、NPOとかでは中間支援と言われますが、これにはテクニックもいるので、誰か利用できるわけではなく、そういった意味では検討すべき課題であると思います。中間支援は、誰でもできるようですが、難しいところもある。
		2	富谷塾には起業目的の方以外にもまちづくりとか仲間づくりで参加している人もいます。そういった方々と市民活動やボランティアの団体との連携も必要だと思う。(曾根委員)	2	中間支援は継続的にやっていくとなると、ちょっと難しいところもあるし、また、海外のように自分たちだけで中間支援をやるというのも難しいが、育った人たちが中間支援をしていくという形が理想的。富谷での活動団体はそんなに日はたっていないが、今後、こうした支援スキームも描けてくるのではないかな。
		3	社協は中間支援、つなぐというものを仕事で一番重要にしている。何かやりたいけど、どうしても「とみぷら」内で終結してしまうということについて、私も「とみぷら」には行ったけど、ボランティアセンターの存在は知らなかったという市民の方とかの相談を受けたりもしたので、その連携は考えていかなければいけないと思っています。(佐藤怜美委員)	3	つなぐというのがポイントとなってくるが、中間支援機能は難しいところがあり、中間支援センターみたいなものを作ると、いっぱいそこに来て、それを全部つなげるというのはそもそも無理。ケースバイケースであって、その人のスキルやセンスみたいなものにも関わってくるが、うまくいった事例とかを出して行って、中間支援の人に過度な負担にならないように、それぞれのセクターが連携すればいいということで、あまりその人にゆだねないような空気を作っていくことも大事。事例集とかを使って、ロールモデルみたいなものをみんなに見てもらってやり方をお話いただくことがすごく重要。

項目		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
		子どもから高齢者まで、活動団体や地域施設など様々な主体が連携協働した活動			
		4	<p>市やシルバー人材センターの活動の中で、子どもや高齢者の各世代の強みを発揮させられる機会とか仕掛け、サポート体制を作り上げることができたらそれはとても有意義な取り組みだと思う。</p> <p>地域に役立ったという、成功体験を子どもに持たせてそれを積み重ねることによって、自己肯定感につながり、その先の自己効力感まで育てることが地域で活躍する人材へと育てていくことにつながる。富谷の子どもたちが郷土を愛する人材に育って行って、その宝が富谷で活躍する、そういう機会を私たちが支援したり、サポートしたり、チャンスを作ってあげられるようなことをプレゼンできたらいいんだろうと思う。(日諸委員)</p>	4	<p>人材をどう活用するかという視点も大事。人材バンクとも言われるし、「プロボノ」という表現もある。</p> <p>プロボノというのは市民活動とかで、弱い部分を補ってもらう人材、例えばITとかを企業のOBの人が個人的なボランティアで補ったりするようなイメージ。ITでなくとも、地域の場合、手仕事の事例も多くあるが、シルバーの方のスキルを活かしていく、シルバー人材を宝と考える視点。それをマッチングする必要は出てくるが、人のマッチングは難しく、世代間の共生は難しいところもあるが、かえってシルバー人材と子どもや若者の相性がよかったりする時もある。いろんな選択肢も探っていけると思う。子どもたちの中間支援みたいなどころに、そういったシルバー人材がはいってみると、案外うまくいく可能性があるかもしれない。</p>
2	<p>(2) 情報発信 ニューズレター等の発行、ホームページ、SNS等の活用</p> <p>活動推進に有益となる講座・イベントや活動団体紹介、助成金等、様々な利用者のニーズに対応したタイムリーな情報を多様な媒体を活用し、発信していく必要があります。</p> <p>また、情報発信に際しては、利用者から参加・協力を得たり、読者からの意見をもらったりする機会をつくることも有効です。</p>				

項目		委員意見		会長意見			
No.		No.		No.			
3	<p>(3) 情報収集</p> <p>活動団体登録、知識や技術を活かすボランティアの登録、活動団体、地域施設間における活動情報の収集</p> <p>窓口での相談や、団体・ボランティアの登録を通じて、地域の活動団体や人材の把握、活動する上での課題やニーズ等を確認します。さらに、活動を発表する機会を設けたり、活動の現場を訪問・取材したりし、活動内容への理解を深め、情報を収集します。</p> <p>また、<u>他の地域施設や組織と、それぞれが持つ情報(活動団体や人材バンク、実施イベント等)を共有し、生きた情報を蓄積し、相談対応やコーディネートの際に活かします。</u></p>	3 (再掲)	<p>社協は中間支援、つなぐというものを仕事で一番重要にしている。何かやりたいけど、どうしても「とみぷら」内で終結してしまうということについて、私も「とみぷら」には行ったけど、ボランティアセンターの存在は知らなかったという市民の方とかの相談を受けたりもしたので、その連携は考えていかなければいけないと思っている。(佐藤怜美委員)</p>	3 (再掲)	<p>つなぐというのがポイントとなってくるが、中間支援機能は難しいところがあり、中間支援センターみたいなものを作ると、いっぱいそこに来て、それを全部つなげるというのはそもそも無理。ケースバイケースであって、その人のスキルやセンスみたいなものにも関わってくるが、うまくいった事例とかを出して行って、中間支援の人に過度な負担にならないように、それぞれのセクターが連携すればいいということで、あまりその人にゆだねないような空気を作っていくことも大事。事例集とかを使って、ロールモデルみたいなものをみんなに見てもらってやり方をお話いただくことがすごく重要。</p>		
4	<p>(4) 人材の発掘・育成・活用</p> <p>活動機会の提供、講座の実施、地域施設間の情報共有</p> <p>生涯学習や市民活動で活動している方の中から、スキルのある人材を発掘するのはもちろんのこと、団体や地域から収集した情報を活用し、<u>在職時のキャリアも含め様々な分野の技術・知識を持つ人材も、地域での活動をつなぐ担い手として育成を進めます。</u></p> <p>また、人材の活用として、講座実施への参画を促したり、他の地域施設や団体へ紹介したりするなど、<u>気軽に活動に取り組めるような活動機会の提供、サポート体制を図ります。</u></p>	在職時のキャリアも含め様々な分野の技術・知識を持つ人材も、地域での活動をつなぐ担い手として育成		5	<p>昔活発な活動していた人が年も重ねて、だんだんその活動から引いてきて、その次の世代の人にうまく引き継がれていけていない。人材の育成という部分も非常にあるのかなと思う。会社の先輩たちも、もう年金暮らしをしているが、すごく優秀で能力を持った人たちが山ほどいる。そういう人を眠らせておくのはもったいない。(北野澤委員)</p>	5	<p>町内会のようなところも含めて、世代をどうやってつないでいくか。</p> <p>企業経験者が、町内会や地域活動とつながり、入っていくのが難しいという方もいると思うが、実際経験している人がそういった方々の講師になっていただくことも良い。</p>
		4 (再掲)	<p>市やシルバー人材センターの活動の中で、子どもや高齢者の各世代の強みを発揮させられる機会とか仕掛け、サポート体制を作り上げることができたらそれはとても有意義な取り組みだと思う。</p> <p>地域に役立ったという、成功体験を子どもに持たせてそれを積み重ねることによって、自己肯定感につながり、その先の自己効力感まで育てることが地域で活躍する人材へと育てていくことにつながる。富谷の子どもたちが郷土を愛する人材に育って行って、その宝が富谷で活躍する、そういう機会を私たちが支援したり、サ</p>	4 (再掲)	<p>人材をどう活用するかという視点も大事。人材バンクとも言われるし、「プロボノ」っていう表現もある。</p> <p>プロボノっていうのは市民活動とかで、弱い部分を補ってもらう人材、例えば IT とかを企業の OB の人が個人的なボランティアで補ったりするようなイメージ。IT でなくとも、地域の場合、手仕事の事例も多くあるが、シルバーの方のスキルを活かしていく、シルバー人材を宝と考える視点。それをマッチングする必要は出てくるが、人のマッチングは難しく、世代間の共生は難しいところもあるが、かえってシルバー人材と子どもや若者の相性がよかったりする時もある。いろんな選択肢も探っ</p>		

項目		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
			ポートしたり、チャンスを作ってあげられるようなことをプレゼンできたらいいんだろうと思う。(日諸委員)		ていけると思う。子どもたちの中間支援みたいところに、そういったシルバー人材がはいってみると、案外うまくいく可能性があるかもしれない。
		気軽に活動に取り組めるような活動機会の提供、サポート体制			
		6	「とみやど」や「富谷塾」、「荷宿」など、せっかいい企画をしているので、市民がもっともっと行けるような雰囲気を作ってもらいたい。 町内会も高齢化が進んできているので、身近にある町内会館を大いに使ってほしいと考えて実施したのがまちかどカフェで、町内会館が行く場所になり、世代を超えた交流の場所にもなる。(平岡委員)	6	市民主体の活動もいいとはいえ、何でもかんでも市民活動じゃなくて、行政の方でやるべきものもある。クリーン作戦のようなものは行政が音頭をとった方が、むしろいいというものもあるということは重要な意見。一方で町内会館を使ってコミュニティを育成していくような、町内会主体でやるものがあるということで、カフェも新しい取り組みとして提示していきたい。 「とみやど」など外からの人から「いいね」という話は聞かすが、地域の人へのPRという問題はある。
		4 (再掲)	市やシルバー人材センターの活動の中で、子どもや高齢者の各世代の強みを発揮させられる機会とか仕掛け、サポート体制を作り上げることができたらそれはとても有意義な取り組みだと思う。 地域に役立ったという、成功体験を子どもに持たせてそれを積み重ねることによって、自己肯定感につながり、その先の自己効力感まで育てることが地域で活躍する人材へと育てていくことにつながる。富谷の子どもたちが郷土を愛する人材に育って行って、その宝が富谷で活躍する、そういう機会を私たちが支援したり、サポートしたり、チャンスを作ってあげられるようなことをプレゼンできたらいいんだろうと思う。(日諸委員)	4 (再掲)	人材をどう活用するかという視点も大事。人材バンクとも言われるし、「プロボノ」っていう表現もある。 プロボノっていうのは市民活動とかで、弱い部分を補ってもらう人材、例えばITとかを企業のOBの人が個人的なボランティアで補ったりするようなイメージ。ITでなくとも、地域の場合、手仕事の事例も多くあるが、シルバーの方のスキルを活かしていく、シルバー人材を宝と考える視点。それをマッチングする必要は出てくるが、人のマッチングは難しく、世代間の共生は難しいところもあるが、かえってシルバー人材と子どもや若者の相性がよかったりする時もある。いろんな選択肢も探っていけると思う。子どもたちの中間支援みたいところに、そういったシルバー人材がはいってみると、案外うまくいく可能性があるかもしれない。
5	(5) 施設間のネットワーク構築 地域施設・組織間の情報共有  地域の課題や魅力・情報の共有化を促進するため、市民協働課、富谷市産業交流プラザ、社会福祉協議会、富谷市ボランティアセンター等、地域の施設・組織等	7	富谷には市民団体がたくさんある。草の根活動のような形で、自分が、感じたところをやっていこうとする人たちがいっぱいいると思う。そこを、行政お任せではなく、さらにより良くつなげていくためには、中間支援というところも、違う形で、市民の協働のまちづくり、団体がもしかして欲しいのか、それかできる人たち、人材を集めて	7	新しい形の中間支援みたい富谷モデルを作っていないといけないと思う。NPO法が成立してから20年を経て、市民活動の概念も変化し、レベルアップしているなかで、かつてのような中間支援NPOによる支援モデルが成り立たなくなっていると思う。新しい形

項目		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
	と情報共有及びネットワークの構築を進めます。また、 <u>市役所関係部署ともネットワーク構築を進めます。</u>		作っていく、そういう形に持っていくのか、市民協働課だけなのか、市全体なのか、何かいろんなことをやる時に、窓口がいろいろ変わるので、いろんな課の人たちとお話する機会があるんですが、担当となる課が連携してつながってやれば、すごくもったいい活動になって、人材もそこに寄って、集められてという風になるのかなと考えたりしている。歯車がカチッと合えば、すごく素敵な人材は富谷にはたくさんいるんじゃないかと思う。 (村上委員)		で富谷の人材をマッチングするような仕組みを議論していけばいいと思う。
6	(6) 講座・イベント きっかけ作り講座、団体スキルアップ講座、体験講座、利用者交流会、地域施設・団体との協働イベントの企画・実施  講座・イベントの企画・実施にあたっては、子どもから高齢者まで幅広い世代の人材の発掘・育成や参加者・団体同士のつながりづくり、情報やノウハウの共有など、それぞれの目的に合わせた仕掛けが重要であり、必要に応じ、実施後の参加者へのサポートを行い、次の段階に繋げていきます。	参加者・団体同士のつながりづくり、情報やノウハウの共有			
		8	富谷以外の方々からは、講習の依頼をいただくが、富谷ではなかなかそういう機会がない。せっかく富谷は自然も豊かなので、都会からとかいろんなところから来ていただいている方々が今5万人を超えている状況にあるので、農業と地域とのマッチング、交流なんかも必要になってくるのではないかと思う。(佐藤政悦委員)		
		それぞれの目的に合わせた仕掛け			
		4 (再掲)	市やシルバー人材センターの活動の中で、子どもや高齢者の各世代の強みを発揮させられる機会とか仕掛け、サポート体制を作り上げることができたらそれはとても有意義な取り組みだと思う。 地域に役立ったという、成功体験を子どもに持たせてそれを積み重ねることによって、自己肯定感につながり、その先の自己効力感まで育てることが地域で活躍する人材へと育てていくことにつながる。富谷の子どもたちが郷土を愛する人材に育っていったら、その宝が富谷で活躍する、そういう機会を私たちが支援したり、サポートしたり、チャンスを作ってあげられるようなことをプレゼンできたらいいんだろうと思う。(日諸委員)	4 (再掲)	人材をどう活用するかという視点も大事。人材バンクとも言われるし、「プロボノ」っていう表現もある。 プロボノっていうのは市民活動とかで、弱い部分を補ってもらう人材、例えばITとかを企業のOBの人が個人的なボランティアで補ったりするようなイメージ。ITでなくとも、地域の場合、手仕事の事例も多くあるが、シルバーの方のスキルを活かしていく、シルバー人材を宝と考える視点。それをマッチングする必要は出てくるが、人のマッチングは難しく、世代間の共生は難しいところもあるが、かえってシルバー人材と子どもや若者の相性がよかったりする時もある。いろんな選択肢も探っていけると思う。子どもたちの中間支援みたいなどころに、そういったシルバー人材がはいってみると、案外うまくいく可能性があるかもしれない。

項目		委員意見		会長意見	
No.		No.		No.	
7	<p>(7) 場の提供・機材の貸出</p> <p>会議室・ミーティングコーナーの提供、活動に必要な機材の貸出、コピー機・印刷コーナー・レターケース・ロッカーの設置</p> <p>利用者にとって身近な活動しやすい場を提供したり、利用者とのコミュニケーションを図ったりする機会としての活用を図ります。</p>	10	<p>町内会館が他の公的などところと違うのは、その所の住民であれば、営業のイベントでなければ、無料で借りられるっていうのと、町内の方なら歩いて来れる距離という、とても条件を兼ね備えている。一つだけ、いつも苦労するのは、駐車スペースがないということだが、歩いてきてとお願いするか近所の方にその時々借りるんですけど、そういうのもコミュニケーションの一つとして工夫してやっている。(増田委員)</p>	8	<p>第三の居場所としての町内会館の活用。町内会館をどう活用していくかということを考えていくと、これも一つのモデル例になってくる。</p>
8	<p>(8) 活動の活性化を促す助成</p> <p>市民の公益的活動の活性化を促す補助金の創設、民間企業の助成金等の情報提供</p> <p>一定の条件のもとですべての市民公益活動団体が公平、公正に補助を受けられる制度を整備し、活動の自立・継続・発展につなげます。</p> <p>持続可能な活動に向けた相談に対しては、補助金や民間企業の助成金等の情報提供なども行います。</p>	11	<p>助成金については金額は小さくてもいいので本当に活動が良い、ちゃんと報告が上がれば、この最低限のこのお金は助成しますという形がボランティア団体の人には使いやすい。そういう助成のあり方というのも、ぜひ市民活動の方から、あり方とかどうやって経営しているんだとか、運営しているんだっていうのを聞いて、富谷市ならではの使いやすい支援っていうのを考えていただきたい。(増田委員)</p>	9	<p>助成金も行政のものだと使いにくいという側面は出てくるかと思う。ここも議論のポイントになってくると思う。活動を始めるための助成、活動を維持するための助成について検討が必要。</p>
		12	<p>実際の現場の声を聞くと、助成金の使い道がすごく難しく、ここには使えるけどこの部分には使えないという助成金が多くあり、運営に困っているという話を相談を受けている。社協でやっている助成金はその活動の良さとか、地域にやはり必要だからと思えば出すことができ、すごく厳しい条件というのはないので、永久的にはではないが、その活動が続く限り、毎年出せる助成金になっている。そのような助成金をもうちょっと広めていきたい。(佐藤怜美委員)</p>		
		13	<p>市民活動から始まって、ただ法人格を取ったっていうだけで中身はそうそうすぐ変わるわけでもなく、継続するために一番大変だったのは助成金で、いろんな助成金を申請し、20件くらい、とれてだんだん大きなことができるようになってきたというのを実際やってみて感じた。(村上委員)</p>		